

便秘薬の使い分け

便秘とは、便を十分にかつ快適に出し切れない状態とされています。排便回数が少なくても必ずしも便秘とは限りません。一般的に便秘を引き起こすのは食習慣、睡眠など生活習慣の乱れやストレスと言われていますが、便秘症を引き起こす薬剤や病気も存在します。

生活習慣の見直しや水分、食物繊維の摂取を積極的に行っているにもかかわらず、便秘の改善が見込めない場合には、便秘薬が処方されることがあります。便秘薬が処方される前には、腸管に便秘の原因となる器質的異常がないか否かの確認、薬剤性便秘の場合は原因薬剤の中止・減量も行われます。

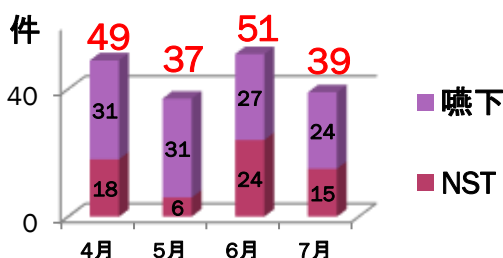
近年、新たな作用機序を有する慢性便秘症治療薬が登場し、治療の選択肢が増えてきました。副作用や合併症を考慮して、適した薬が選ばれます。

	分類		一般名	薬品名	
ステップ1	プロバイオティクス	整腸剤	ビフィズス菌	ビオフェルミン [®]	
			ラクトミン製剤	ビオスリー [®]	
ステップ2	浸透圧性下剤 (便をやわらかくする薬)	塩類下剤	酸化マグネシウム	マグミット [®]	
		糖類下剤	ラクツロース	モニラック [®] (小児) ラグノスNF [®] (成人)	
		その他	ポリエチレングリコール	モビコール [®]	
ステップ3	上皮機能変容薬 (便をやわらかくする薬)	ルビプロストン		アミティーザ [®]	
		リナクロチド		リンゼス [®]	
	胆汁酸トランスポーター阻害薬 (便をやわらかくし、大腸を動かす薬)		エロピキシバット	グーフイス [®]	
	膨張性下剤 (便をやわらかくする薬)		ポリカルボフィルカルシウム	コロネル [®]	
ステップ4	刺激性下剤 (大腸を動かす薬) <i>原則的に短期にとどめる</i>	大腸刺激性下剤	センナ	アローゼン [®]	
			センノシド	プルゼニド [®]	
		直腸刺激性下剤		ピコスルファートナトリウム	ラキソベロン [®]
				ビスコジル	テレミンソフト [®]
	漢方薬 (大腸の動きを整える作用)		炭酸水素Na・無水リン酸二水素Na	新レンカルボン [®]	
			大黄甘草湯		
麻子仁丸					
		大建中湯			
オピオイド誘発性便秘症治療薬		ナルデメジン	スインプロイク [®]		

原則として、ステップ1から順に使用されます。

編集担当:専任薬剤師 大森美希

月別栄養サポートチーム加算件数



●水分摂取について

便秘の原因の一つに、水分不足があります。体内の水分が不足すると、腸の動きが悪くなり、便の水分量が減って、便が硬くなってしまいます。特に秋から冬にかけては、腸内細菌のバランスが崩れやすく、夏より水分補給が減り、空気中が乾燥するなど、便秘の原因が多くなります。意識的に水分を摂りましょう！

アルコールやカフェイン・砂糖の多く含まれる飲料は、水分補給に適していませんので、ご注意ください。

